

今後の検討の進め方（案）

今後のスケジュール

<H25年度>

■第1回（10月18日）

- 社会インフラの維持管理及びモニタリング技術の現状と課題
- 今後の検討の方向性 等

■第2回（本日）

- センサー、I T等の技術の現状
- 社会インフラの構造・特性ごとのモニタリング技術に対するニーズ 等

※社会インフラの構造・特性ごとの検討体制の確立（ワーキンググループWGの設置）

モニタリング技術の公募

■第3回（年度内）

- 公募結果の報告（公募等により抽出した技術の紹介等）
- 今後の現場実証の進め方 等

<H26年度>

■第1回

- モニタリングデータの分析方法・体制の検討
- 現場実証の状況報告 等

■第2回以降

- センサー、I T等の技術開発の状況把握、それを踏まえた社会インフラのモニタリング技術に対するニーズの精査
- 公募（第2弾）において考慮すべき事項
- モニタリングの状況報告 等

WGについては、
現場実証の進捗に
よって適宜開催

社会インフラの構造・特性ごとの検討体制

社会インフラ各分野における今後の現場実証を、効率的・効果的に進めることを目的として、必要に応じて順次、構造・特性別のワーキンググループを設置。

社会インフラのモニタリング技術活用推進検討委員会

以下について専門的見地から助言（第1回委員会資料1より抜粋）

- ・モニタリング技術の活用促進に向けた検討の方向性
- ・モニタリング技術の現場実証に向けたニーズとシーズのマッチング
- ・得られたデータと社会インフラの損傷・劣化等の関係
- ・その他、モニタリング技術の活用に関し必要な事項

WG

○橋梁WG ○海洋・沿岸構造物 ○土構造物(堤体、盛土等)WG
○トンネルWG ○斜面WG ○空港施設WG 等

(WG名称は仮称)

主に以下の事項について検討することを予定

- ・公募条件、現場条件の検討
- ・実証方法、目標水準の検討
- ・応募技術の審査、採択の可否に関する助言
- ・実証計画の検討
- ・実証によって得られた結果の評価・分析、委員会へのレポート作成

モニタリング技術の現場実証に向けた検討におけるWGの位置づけ

